

第 2 回神戸市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

【開催日時】 平成28年10月18日（火）15時～17時

【開催場所】 三宮研修センター 5階505会議室

【出席者】 委員36名

【議事（主な意見交換の内容）】 以下のとおり

○委員

- ・ スケジュール表の矢印について今後精査し、タイムスケジュールがもう少し出た方がいい。

○委員

- ・ 取り組み内容が非常に多くなっているので、スケジュール表で優先順位を示すようなまとめ方をすれば良いのではないかと。

○委員

- ・ 37 ページに（7）輸送サービスの改善・効率化の検討とあるが、改善と効率化では意味合いが相反するのではないかと。改善という表現は、前向きにサービスを充実させていく意味に取れるが、効率化は減便等の対策の実施も意味しているように取れる。また、速達性向上策について検討すると記載しているが、具体的過ぎるので幅広い表現にすべきではないかと。

○委員

- ・ モビリティ・マネジメントの目標値が2箇所とあるが、そんなに難しいことではないはずなので、もう少し意欲的に目標設定するべきではないかと。

○委員

- ・ 市民にわかりにくい用語が含まれているので、わかりやすい表現方法を工夫した方がいい。例えば、国庫補助やモビリティ・マネジメントなど。

○委員

- ・ 市街地に関する施策の項目が無いが、市街地での施策について記載して頂きたい。

○委員

- ・ BRT の導入においては、定時制の確保が重要となる。路線バスのサービス向上の観点からも、道路全体の渋滞緩和等による定時制の向上策について考えて頂きたい。

○委員

- ・バス停留所でのベンチや上屋の設置についての予算規模について教えて頂ければ、協力できる部分もできてくると考える。
- ・西北神地域のなかで、当社としては他都市を結ぶ路線を都市間バスと位置付け、重要な路線であると考えているので路線の変更は難しいと考えている。
- ・路線の再編や結節点の整備は望ましいと考えるが、近隣市からの乗客もいるので、近隣市の意見も踏まえて検討をしていただきたい。

○委員

- ・市バスは大半が地域コミュニティ交通の扱いになると思うが、地域のニーズに答えるための長大路線の短絡化、重複路線の統廃合などといった取り組みについてももう少し触れて頂きたい。

○委員

- ・地域コミュニティ交通の維持・充実にあたっては、行政と事業者、それから市民の方々のコミュニケーションを十分にとりながら進めて頂きたい。

○委員

- ・タクシーは公共交通と認知されにくいのが、計画で扱われていてありがたい。
- ・三宮だけでなく、例えば阪神電鉄の高架工事に合わせて、青木駅、深江駅などでのタクシーベイエリアの検討を項目に盛り込んで頂きたい。

○委員

- ・路線バスとの協調ができるのであれば、最終便後のバス停をタクシーベイとして利用させて頂くことで、サービス強化につながるのではと考えている。

○委員

- ・タクシーは交通においてきめ細やかな輸送を担う役割だと考えている。地域の要望に応じた対応を最優先に運行に取り組んでいきたいと思う。

○委員

- ・神戸市の特徴である坂が多く、道路が狭いという地形を考慮し、高齢者人口分布等を踏まえた計画を考えるべきだと思う。
- ・タクシーの運行に対する補助の導入を検討していただきたい。

○委員

- ・タクシーの立ち位置が明確でないように感じる。

○委員

- ・インバウンドが増加しており、特に、個人で周られる方が増えていることを踏まえ、多言語化など、わかりやすい交通案内は喫緊の課題だと認識している。
- ・企画券や分かりやすい料金体系と合わせ、鉄道沿線周辺の観光施設と連携するなど、お金を使っていただけるような仕組みや滞在時間を増加させる仕組みを検討することで、公共交通機関の利用促進にもつながると思う。

○委員

- ・公共交通の整備後も継続的に利用していただけるような意識醸成が重要であると考えている。

○委員

- ・基本方針と目標は現状・課題を踏まえて設定していると思うが、そのことが分かりやすい流れに整理していただきたい。
- ・3つの目標と数値目標を関連させて記述すべきではないか。
- ・明確に実施することが決まっている事業については、もう少し具体的に書くべきではないか。それにより各施策のスケジュールも精査できる。やると決まっていることは、どんどん書いてPRしてほしい。
- ・再編実施計画は具体的な運賃設定や資金計画を盛り込んだものになる。対象路線をどうしたいか、現状はどうかといった大まかなことは形成計画に書き込んでおく必要があるので、スケジュール感も踏まえて検討していただきたい。

○委員

- ・総花的に見えるので、取り組みに優先順位を付けて進めて頂きたい。
- ・各施策について、効果がなければ勇気を持ってやめていくことも視野に入れ、各々の取り組みにコストに見合った効果があるのかを評価する指標を検討して頂きたい。

○委員

- ・時間軸を意識した時に、施策区分はこれでいいのかなと思う。今後、明らかに課題となることが明確なことについて、予防保全的な観点からの課題の掘り起しがあっても良いのではないか。例えば、新長田に県民局や市役所機能の移転が計画されているが施策の中にはない。また、今後、神鉄と同じように利用者の減少が予想される市営地下鉄をどうするのかといったことなどが現在の施策にはない。
- ・施策1、2、4、5が個別のエリアで、施策3、6が全域をカバーするような構成にな

っているが、施策3のカバーする範囲が広く、その割には対応策が薄い気がするのでもう少し厚みがあってもよいのではないか。

○委員

- ・六甲山・摩耶山での公共交通利用促進に関して、地形的な制約から、公共交通でできることにも限界があるように思う。可能であれば、拠点となる駐車場に車を止め、周遊バスに乗り換えるような施策を検討してはどうか。
- ・インバウンドがどのような交通手段で来ているのかを示すデータがあれば、施策の検討につなげやすくなると思う。

○委員

- ・地域コミュニティ交通の維持・充実にに関して、課題として免許返納者の増加を取り上げているが、返納する方は、すでに代替となる交通手段を確保しているか、公共交通が充実しているエリアの方が多いのが実態である。本当に返納していただきたい方は、車がないと生活できないようなエリアにお住まいの方である。そのようなエリアに地域コミュニティ交通を導入して頂きたい。

○委員

- ・施策の進行管理にあたって、市内の人の動きを複数の交通事業者をまたいで全市的に把握できるのは神戸市だけであると思うので、積極的に実施して交通事業者と共有して頂きたい。場合によっては計画を見直す必要も出てくることも踏まえ、各種調査結果等、PDCAの基本となる資料を神戸市で集めて整理して頂きたい。

○委員

- ・交通環境や乗り継ぎ環境という用語は一般の人には分かりにくいのではないか。
- ・25 ページの表の整理は再度見直すべきではないか。
- ・24 ページで施策6を施策1～5すべてに関係する施策として扱われているが、神戸市のマップでどう表現できるのか考えていただきたい。それに合わせて施策1のタイトルを変える必要があるかと思うので検討していただきたい。
- ・公共交通が多く利用されているところを便利にしないと、目標に挙がっている公共交通分担率は上がらないと思われるので、サービス改善について施策6の中に取り入れるべきではないか。また、まちづくりとの連携についても取り入れるべきではないか。
- ・バス路線の再編路線数を目標値にするのは手段と目的の倒置が起きるので気をつけて頂きたい。